

天声人語

沖縄戦が始まった1945年3月、地元の学徒たちが急きよ
集められ組織されたのが、鉄血
勤皇隊である。きのう92歳で亡
くなつた大田昌秀さんもその一
人だつた。伝令の任務を帯びて
移動している最中に、米軍機に狙われた
▼近くの防空壕に逃れようとするが、な
かにいた味方兵士から銃を向けられた。
「誰がここに入れといつたんだ。出て失
せろ」と怒鳴られたと自著にある。日本
軍の兵士が県民を守るどころか死地に追
いやる。戦後、沖縄戦の研究を続けた大
田さんの原体験なのだろう▼学者から沖
縄県知事に就いていた1995年、米兵
による少女暴行事件が起きた。「本来一
番に守るべき幼い少女の尊嚴を守ること
ができるなかつた」と語つて、県民にわび
た。基地縮小を求め、日米両政府と対峙
し続けた▼基地返還の代わりに、名護市
辺野古沖での海上基地建設が政府から示
された。しかし、首を縊に振ることはで
きなかつたと書き残している。「私を引
きとどめたのは、沖縄の歴史の重さだつ
た」▼多くの人がみじめに死んだのを見
てきた。命を落とした一人ひとりの重さ
を、学者として政治家として引き受けよ
うとしてきた生涯だった。知事時代の仕
事に「平和の礎」の建立がある。石板に
県民や兵士ら24万人余りの名が刻まれて
いる▼一度と沖縄に惨事を起こさせない
と何度も語つっていた。「基地のない沖縄
を」という大田さんの思いはいまだ遂
げられていない。だからこそ向き合わ
ねばならない。重い問いかけである。

2017・6・13